

科目名	基礎科学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	授業形態	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	本講義は、人体の構造と機能を理解するために生物学と、身体の動きを理解するために物理学を学ぶ。 ・生物学:細胞から個体までの機能を学ぶ。 ・物理学:身体の動きを理解するために物理学の基礎を学ぶ。								
一般目標	・生物学:生物現象の基本的な概念や原理・法則の理解を深めること、生物学的に探究する能力や態度を身につける。 ・物理学:力をベクトルを数値などで表すなど、力と動きの関係についての知識を身につける。								
テキスト参考書等	テキスト:解剖生理学(医学書院)、姿勢と運動の力学がやさしくわかる本(ナツメ社) 参考書:視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録(数研出版)、好きになる免疫学(講談社)、よく分かる分子生物学の基本としくみ(秀和システム)、知っておきたい生物の基本ノート(生化学・分子生物学)(中経出版)、知っておきたい生物の基本ノート(細胞生物学・遺伝学)(中経出版)								

到達目標									
知識(認知領域) ・生物学の基本知識が説明できる。 ・物理学の知識をもとに、理学療法士作業療法士国家試験に出題されるうち運動力学に関する問題を解くことができる。									
技術(精神運動領域) ・なし									
態度(情意領域) ・授業に参加できる。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	生物の成り立ち	細胞のつくり・細胞内小器官を説明できる。	テキストの細胞の構造を予習する(30分)。 細胞内小器官の名称と機能を復習する(30分)。
2	タンパク質の役割	アミノ酸とタンパク質の関係とその性質を理解できる。	アミノ酸の基礎知識をテキストで確認する(30分)。 タンパク質の性質と役割を整理し復習する(30分)。
3	エネルギー代謝	解糖系・クエン酸回路系・電子伝達系を理解して説明できる。	代謝の経路についてテキストを読み予習する(30分)。 解糖系やクエン酸回路の仕組みを復習する(30分)。
4	遺伝子としてのDNA	DNAの構造を説明できる。 染色体の構造を理解し、体細胞分裂と減数分裂の挙動を説明できる。	DNAと染色体の基本構造を予習する(30分)。 体細胞分裂と減数分裂の違いを復習する(30分)。
5	発生と生殖のしくみ	男性ホルモン・女性ホルモンを列名できる。 正常妊娠の経過を説明できる。	生殖器和ホルモンの基礎を予習する(30分)。 正常妊娠の経過とホルモン変化を復習する(30分)。
6	転写と翻訳	DNAからRNAへの転写、タンパク質合成に至る翻訳を含む遺伝情報の発現	遺伝情報の伝達過程をテキストで予習する(30分)。 転写と翻訳のプロセスを整理し復習する(30分)。
7	外部環境からの防御(1)	生体の非特異的防御機構を説明できる。 体液性免疫と細胞性免疫を説明できる。	免疫の基本概念をテキストで予習する(30分)。 非特異的防御と体液性免疫を復習する(30分)。
8	外部環境からの防御(2)	アレルギーを説明できる。 体温調節のしくみを説明できる。	アレルギーと体温調節をテキストで予習する(30分)。 免疫異常と体温調節の仕組みを復習する(30分)。
9	力と重心	重さと質量、力の単位、重心、ベクトルとスカラー、作用・反作用の法則の概念が説明できる。	物理学の力の単位と重心を予習する(30分)。 ベクトルと作用反作用の法則を復習する(30分)。
10	床反力と身体運動	床反力と床反力作用点、支持基底面、床反力ベクトル、ベクトルの合成の概念が説明できる。	支持基底面と床反力の概念を予習する(30分)。 合成ベクトルと床反力作用点を復習する(30分)。
11	並進運動と運動の法則	並進運動と回転運動、速度と加速度、慣性の法則、運動の法則(第2法則)、重心の移動の概念が説明できる。	速度、加速度、慣性の法則を予習する(30分)。 運動の第2法則と重心移動を復習する(30分)。
12	回転運動とモーメント	回転運動とモーメント、モーメントのつり合い、関節運動と関節モーメント、姿勢と関節モーメントの概念が説明できる。	モーメントとつり合いの基礎を予習する(30分)。 関節モーメントと姿勢の関係を復習する(30分)。
13	エネルギーとパワー	仕事、力学的エネルギー、エネルギー保存の法則、パワーと仕事率、筋の収縮様式と関節パワーの概念が説明できる。	仕事とエネルギー保存の法則を予習する(30分)。 パワーと筋収縮の様式を整理し復習する(30分)。
14	運動力学まとめ①	運動力学のポイントについてデータ測定を通してまとめることができるの概念が説明できる。	データ測定に関する基礎知識を予習する(30分)。 測定データと力学概念の関連を復習する(30分)。
15	運動力学まとめ②	運動力学のポイントについて資料を通してまとめることができる	運動力学の重要事項を資料で予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	木田 裕之、東野 幸夫		実務経験紹介	山口大学医学部にて生理学講義を17年間担当(木田)、作業療法士として臨床経験を10年以上有する(東野)	

科目名	心理学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	リハビリテーション医療に必要な心理学の基礎を学ぶ。								
一般目標	心理学のエッセンスを習得する。 本講義により学んだ心理学の知見を活かし、自らの専門領域において柔軟かつ積極的にかかわるような富んだ人間性を身に付ける。								
テキスト 参考書等	レジメを配布する(第1回のガイダンスで説明する「受講のきまり」を守ってください)。								

到達目標									
知識(認知領域) ・心理学の基礎知識が説明できる。									
技術(精神運動領域) ・なし									
態度(情意領域) ・適切な態度で受講できる。・授業に参加できる。・第1回のガイダンスで説明する「受講のきまり」を守ってください。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	ガイダンス、心理学とは	心理学の概要について説明できる。	心理学の概要について関心を持ち調べる。(30分) ガイダンス内容と心理学の概要を復習する。(30分)
2	生涯発達心理学1	生涯発達における心理について説明できる。	生涯発達の概念について配付資料を予習する。(30分) 授業で学んだ生涯発達心理について復習する。(30分)
3	生涯発達心理学2	生涯発達における心理について説明できる。	前回到続き、生涯発達の過程を予習する。(30分) 生涯発達における心理的变化を復習する。(30分)
4	パーソナリティ1	パーソナリティについて説明できる。	パーソナリティの定義について資料を予習する。(30分) パーソナリティの形成要因について復習する。(30分)
5	パーソナリティ2	パーソナリティについて説明できる。	パーソナリティの分類や理論を予習する。(30分) 授業で学んだパーソナリティ理論を復習する。(30分)
6	行動の成り立ち1	行動の成り立ちについて説明できる。	人の行動が起こるメカニズムを予習する。(30分) 行動の成り立ちと学習理論について復習する。(30分)
7	行動の成り立ち2	行動の成り立ちについて説明できる。	前回到続き、行動の成り立ちを予習する。(30分) 様々な行動の要因について整理し復習する。(30分)
8	記憶1	記憶について説明できる。	記憶のメカニズムについて配付資料を予習する。(30分) 記憶の過程(記銘・保持・想起)を復習する。(30分)
9	記憶2	記憶について説明できる。	忘却のメカニズムや記憶の種類を予習する。(30分) 記憶に関する理論を整理し復習する。(30分)
10	対人関係・コミュニケーション1	対人関係・コミュニケーションについて説明できる。	対人関係とコミュニケーションの基礎を予習する。(30分) 対人関係の心理的メカニズムを復習する。(30分)
11	対人関係・コミュニケーション2	対人関係・コミュニケーションについて説明できる。	コミュニケーションの技法について予習する。(30分) 対人関係を円滑にする方法について復習する。(30分)
12	集団心理1	集団心理について説明できる。	集団の中での個人の心理について資料を予習する。(30分) 集団心理の特徴やメカニズムを復習する。(30分)
13	集団心理2	集団心理について説明できる。	リーダーシップや集団の意思決定を予習する。(30分) 授業で学んだ集団心理の応用を復習する。(30分)
14	ストレスマネジメント1	ストレスマネジメントについて説明できる。	ストレスの定義や要因について配付資料を予習する。(30分) ストレスのメカニズムについて復習する。(30分)
15	ストレスマネジメント2	ストレスマネジメントについて説明できる。	ストレスへの対処法(コーピング)を予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	杉野 弘明		実務経験紹介	非常勤講師として心理学の講義を担当した経験あり。	

科目名	情報処理				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	パソコン室
授業概要	パソコンは現代人にとって必須機材であり、パソコンを使う能力は職業人として不可欠である。授業ではパソコンに関する基本的な知識と操作方法を学習する。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に設置されているPCの利用方法の理解。各種WEB学習システムの設定と利用方法が理解できる。 ・パソコン及びWindowsの基礎知識と操作方法を修得する。 ・利用技術としての文書処理(Word)、表計算処理(Excel)、プレゼンテーション資料(PowerPoint)作成方法を修得する。 								
テキスト 参考書等	30時間でマスターOffice2024(実教出版)								

到達目標									
知識(認知領域) ・文書処理(Word)、表計算処理(Excel)、プレゼンテーション資料(PowerPoint)作成ができる。									
技術(精神運動領域) ・文書処理(Word)、表計算処理(Excel)、プレゼンテーション資料(PowerPoint)作成ができる。									
態度(情意領域) ・授業に参加できる。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション	学校に設置されているPCの利用方法の理解。各種WEB学習システム(teams、moodleなど)の設定と利用方法が理解できる。	シラバスを確認し、授業の進め方を把握する。(30分) Teamsやmoodleにログインし操作を確認する。(30分)
2	パソコンとWindowsの基礎知識と操作	パソコンを利用する際に必要となる入出力機器、アプリケーションの起動・終了に関する知識 パソコンの主流OSである Windowsの基礎知識と操作	パソコンの各部分名称や役割について調べておく。(30分) Windowsの基本操作やファイル管理を復習する。(30分)
3	文字入力および日本語変換機能の基本操作	各種文字入力方法とMS-IMEを使った日本語変換機能	ローマ字入力のキー配置を事前に確認しておく。(30分) タイピング練習を行い、文字の入力速度を上げる。(30分)
4	文書作成の基礎 ①	WORDを使った文章の作成と書式設定をする	テキストのWordの基礎に関する範囲を読んでおく。(30分) 授業で作成した文書の書式設定を再度行い復習する。(30分)
5	文書作成の基礎 ②	WORDを使って文章の編集および文中に表を作成し編集する	Wordでの表作成や編集機能について確認しておく。(30分) 複雑な表を含む文書を実際に作成し、操作に慣れる。(30分)
6	文書作成の基礎 ③	WORDを使ってビジュアルな文書を作成する	画像や図形の挿入方法についてテキストで確認する。(30分) 授業で学んだ機能を用いて、視覚的な文書を作成する。(30分)
7	表計算処理の基礎 ①	EXCELの基本機能とデータ入力方法を理解する	テキストのExcelの基礎に関する範囲を読んでおく。(30分) セルへのデータ入力やファイルの保存方法を復習する。(30分)
8	表計算処理の基礎 ②	EXCELのデータ編集方法を理解する	Excelのデータ編集機能(コピー等)を確認する。(30分) オートフィルなどを用いて効率的に表を作成してみる。(30分)
9	表計算処理におけるグラフ作成	EXCELのグラフの種類と作成機能を理解する	様々なグラフの種類と、それぞれの用途について調べる。(30分) 提示されたデータから、目的に合ったグラフを作成する。(30分)
10	表計算処理における関数利用 ①	EXCELの基本的な関数機能を理解する	SUMやAVERAGEなどの基本的な関数について調べる。(30分) 実際に基本関数を使って、表内の計算式を作成する。(30分)
11	表計算処理における関数利用 ②	EXCELの応用関数機能を理解する	IFやVLOOKUPなどの応用関数について調べる。(30分) 応用関数を用いた条件付きの計算方法を復習する。(30分)
12	表計算処理における応用機能	EXCELの並べ替え、フィルターなど便利な機能を理解する	データの並べ替えや抽出機能の目的について確認する。(30分) フィルター機能を使って、目的のデータを抽出する。(30分)
13	プレゼンテーション資料の作成基礎 ①	POWERPOINTの使い方を理解する	テキストのPowerPoint基礎の範囲を読んでおく。(30分) スライドの追加やテキスト入力の基本操作を復習する。(30分)
14	プレゼンテーション資料の作成基礎 ②	POWERPOINTの付加機能の使い方を理解する	アニメーションや画面切り替え効果について調べる。(30分) 学んだ付加機能を用いて、効果的なプレゼン資料を作る。(30分)
15	生成AIについての基礎知識	生成AIの特性と法的・倫理的リスクを正しく理解し、情報の妥当性を判断しながら責任を持って活用できる能力を養う。	生成AI(ChatGPT等)に関する最新ニュースを調べる。(30分) 生成AIを利用する際の利便性と注意点についてまとめる。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品	○			20	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	当校において、PC・WEBシステムの管理を担当	

科目名	日本語表現法			単位数	2	時間数	30		
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	学生生活や社会においてコミュニケーション能力は重要であることから、本講義では、学内におけるレポートや小論文作成時の表現手法や、社会人で必要となる様々な表現スキルについて演習を交えて学ぶ。								
一般目標	日本語の表現方法における言葉の基準やマナーを身につけ、様々なフォーマットで適切に日本語による表現を行うことができる。								
テキスト 参考書等	・なし ※随時プリントを配布します。								

到達目標

知識(認知領域)	・日本語の表現方法における言葉選びの基準やマナーを身につけることができる。
技術(精神運動領域)	・小論文・レポート・お礼状などを日本語表現の規範に沿って作成することができる。
態度(情意領域)	・授業に積極的に参加できる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション 授業の目的と「言葉」使用の重要性を説明	・言葉使用の重要性を説明することができる。	言葉の使用目的について考えをまとめる(30分)。 授業の目的と言葉の重要性を復習する(30分)。
2	コミュニケーションと言語・言葉選びの基準 「話し言葉」と「書き言葉」	・言葉選びの基準を説明できる。・言葉選びの基準を用いてコミュニケーションが行える。・「話し言葉」と「書き言葉」の留意点についてそれぞれ説明することができる。	話し言葉と書き言葉の違いを予習する(30分)。 言葉選びの基準と留意点を復習する(30分)。
3	書く時のルール 書き言葉で書く・文末表現の統一	・文末表現を統一して書くことができる。 ・作文の書き方ルールを覚え、実際に書くことができる。	文末表現の基本ルールを予習する(30分)。 統一した表現での書き方を復習する(30分)。
4	ねじれ文と敬語表現	・主語・述語が一致した文が書けるようになる ・敬語表現について復習し、ソーシャルスキルを身につける	主語と述語の関係性を予習する(30分)。 敬語表現とねじれ文の修正を復習する(30分)。
5	作文の書き方～メモから書き方まで「3点法」	・作文の書き方についてポイントを説明することができる。 ・3点法を用いて書くことができる。	3点法の構成について予習する(30分)。 メモから文章を作る手順を復習する(30分)。
6	原稿用紙の使い方・レポート用紙の使い方	・原稿用紙およびレポート用紙の使い方を理解し、実際に書くことができる。	原稿用紙の基本ルールを予習する(30分)。 用紙ごとの適切な使い方を復習する(30分)。
7	演習	・テーマに合わせて、作文を書き、自分で添削する。	作文のテーマについて考えをまとめる(30分)。 演習で書いた作文の添削箇所を復習する(30分)。
8	小論文の書き方	・小論文の書き方におけるポイントを説明することができる。 ・書き方のポイントに留意して小論文を作成することができる。	小論文の基本構成について予習する(30分)。 小論文作成のポイントを復習する(30分)。
9	主観と客観が理解できる 根拠の必要性	・演習により、主観と客観について理解し、文で表現することができる。(主観的書き方から客観的な書き方へ)・根拠の必要性を知り、自分の意見に対する明確な根拠を示すことができるようになる。	主観と客観の違いについて予習する(30分)。 客観的な表現と根拠の示し方を復習する(30分)。
10	演習	・テーマに関する自分の意見を導き出し、それに対する根拠をまとめる	自分の意見と根拠をメモにまとめる(30分)。 意見に対する根拠の妥当性を復習する(30分)。
11	演習	・小論文を書く	小論文の構成案を事前に作成する(30分)。 作成した小論文の表現を再度復習する(30分)。
12	レポートの書き方	・レポートの書き方におけるポイントを説明することができる。 ・書き方のポイントに留意してレポートを作成することができる。	レポートの基本様式について予習する(30分)。 レポート作成時の留意点を復習する(30分)。
13	ビジネス文書の書き方	・ビジネス文書について理解し、実際に書けるようになる	ビジネス文書の定型表現を予習する(30分)。 実務で使う文書の書き方を復習する(30分)。
14	お礼状の書き方	・お礼状の書き方を知り、実際に書けるようになる	お礼状のマナーと構成を予習する(30分)。 感謝を伝える適切な表現を復習する(30分)。
15	最近の日本語(問題課題) 類義語について	・最近の日本語(問題課題)について知る。 ・言い換えができるようになる(類義語が多い日本語)	現代の日本語の課題を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	久賀 菜穂子		実務経験紹介	本校教員として日本語表現法の講義を担当した経験あり。	

科目名	英語				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	病院で使われる特殊な表現及び、日常生活の様々な場面を想定して実生活に役立つ表現を学ぶ。								
一般目標	英語の聴き取り能力や表現能力を養い、そして国際語(英語)による総合的なコミュニケーション能力を高めることを目標とする。 1. Native speaker の表現を理解できる。 2. 医療の場面での簡単な英会話を理解できる。								
テキスト 参考書等	PT・OTが書いたリハビリテーション英会話(メジカルビュー)								

到達目標

知識(認知領域)	日常生活または医療現場での基本的な会話ができる。
技術(精神運動領域)	日常生活または医療現場での基本的な会話ができる。
態度(情意領域)	授業に積極的に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	初回の挨拶をしよう	自己紹介の表現、相手が困っていることを聞く表現ができる	初回挨拶についてテキストを予習する。(30分) 自己紹介などの英語表現を復習する。(30分)
2	痛み部位を聞いてみよう 痛みの種類や程度を聞いてみよう	痛みの場所・種類・程度を聞く表現ができる	痛みの表現についてテキストを予習する。(30分) 痛みの種類や程度の聞き方を復習する。(30分)
3	痛みの経過を聞いてみよう 基本的な肢位を指示してみよう	痛みの出現の仕方・悪化の表現ができる 各肢位の表現、患者の位置を微調整する表現ができる	痛みの経過や基本肢位の単語を予習する。(30分) 患者への肢位指示の英語表現を復習する。(30分)
4	応用的な肢位を指示してみよう バイタルサインを確認しよう	各肢位・真似してもらったときの表現ができる 体調を聞く表現ができる	応用肢位とバイタル確認の基礎を予習する。(30分) 患者の体調を聞く英語表現を復習する。(30分)
5	自動可動域を測定してみよう 他動可動域を測定してみよう	最大可動域を測定するための表現、可動域制限の原因を聞く表現ができる 相手にリラックスしてもらう表現、角度結果を伝える表現ができる	可動域測定に関するテキストを予習する。(30分) 測定時の患者への声掛け表現を復習する。(30分)
6	体幹の可動域を測定してみよう 頭部の可動域を測定してみよう	前後側・側屈・回旋の表現ができる 首の前後屈・側屈・回旋の表現ができる	体幹・頭部の運動学の基礎表現を予習する。(30分) 首や体幹の測定時の英語表現を復習する。(30分)
7	筋力を測定してみよう 触覚検査をしてみよう	抵抗をかけたときの表現ができる 感覚をたずねる表現ができる	筋力測定と触覚検査のテキストを予習する。(30分) 抵抗や感覚を尋ねる英語表現を復習する。(30分)
8	バランス検査をしてみよう 歩行評価をしてみよう	片脚立位・タンデム・不安定・転ぶの表現ができる さまざまな歩行の表現ができる	バランスと歩行評価のテキストを予習する。(30分) 様々な歩行の英語表現を振り返り復習する。(30分)
9	ホームエクササイズを指導してみよう RICE処置を指導してみよう	運動回数や頻度の表現ができる RICE処置、炎症に関連する表現ができる	運動やRICE処置の基礎表現を予習する。(30分) 運動頻度や炎症関連の英語表現を復習する。(30分)
10	移乗動作の練習をしてみよう 食事の評価と指導をしてみよう	移乗時の動作・介助の表現ができる 食事の一連の動作表現ができる	移乗と食事の動作のテキストを予習する。(30分) 移乗時の介助や一連の動作表現を復習する。(30分)
11	適切な歩行補助具を選択してみよう 自宅のトイレを改修してみよう	患者の状態を確認する、2つのうちどちらか1つを選ぶ表現ができる ～したことがありますかの表現、さまざまな福祉用具の表現ができる	歩行補助具や住環境のテキストを予習する。(30分) 用具選択や確認の英語表現を復習する。(30分)
12	退院後の生活指導をしてみよう ADL表現について	火事に関する表現、心配事を聞く表現、ADL表現ができる	ADLや生活指導のテキストを予習する。(30分) 心配事を聞く表現やADL表現を復習する。(30分)
13	コラム①	生活に関するいろいろな表現ができる	コラム内容についてテキストを予習する。(30分) 生活に関する多様な英語表現を復習する。(30分)
14	コラム②	生活に関するいろいろな表現ができる	コラム内容についてテキストを予習する。(30分) 生活に関する多様な英語表現を復習する。(30分)
15	リハビリテーション英会話まとめ	期末試験に備えて重要ポイントを復習し、理解できる。	これまでの英会話表現の基礎を確認する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	岡野 智子		実務経験紹介	英語講師として英語教室や小学校等で指導に携わる	

科目名	医療倫理学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	今日医療者がなぜ倫理を求められているかを理解した上で、医療倫理の基本的な視点、概念、さまざまな倫理課題について学習する。とりわけ病者の思考や行動様式を社会・文化的視点あるいは生活者の視点から理解し、医療者と病者・その家族の関係のあり方、そこに見いだされる倫理的課題について検討する。								
一般目標	臨床において倫理的判断が求められる場面で、患者・利用者やその家族、他の専門職等と共同して適切な判断ができるようになる。								
テキスト 参考書等	使用しない。参考文献は授業中に提示する。								

到達目標

知識(認知領域)	インフォームド・コンセントをはじめとする倫理的判断の前提となる知識を修得する。
技術(精神運動領域)	臨床課題に対して、適切な倫理的判断ができるようになる。
態度(情意領域)	多様な背景や考え方をもつ人々と意見を調整することができる。 授業に参加できる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション:医療倫理とはいかなる分野か?	医療倫理とはどのような分野か、医療専門職およびその医療行為になぜ倫理が求められるかを説明できる。	医療倫理について自分なりに調べて予習する(30分)。 医療者に倫理が求められる理由を整理し復習する(30分)。
2	ディスカッション:脳死と臓器移植	臓器移植について、自分がドナー、レシピエント、その家族等の立場になった場合どのように考えて判断するかを表明できる。	脳死と臓器移植の基礎知識を自分なりに調べて予習する(30分)。 各立場における倫理的課題を振り返り整理する(30分)。
3	臓器移植法と倫理	日本における臓器移植法とその改訂の意味および課題を説明でき、そのことについての自分の意見を述べられる。	日本の臓器移植法の概要について予習する(30分)。 法改正の背景と自身の意見をまとめ復習する(30分)。
4	患者の自己決定権とインフォームド・コンセント	患者の自己決定権とインフォームド・コンセントの定義や条件について説明できる。	自己決定権とICの定義について予習する(30分)。 適切なICの条件について内容を復習する(30分)。
5	文化摩擦としての輸血拒否	患者の自己決定権とインフォームド・コンセントの課題について説明し自分の意見を表明できる。	輸血拒否に関する倫理的葛藤を予習する(30分)。 信仰と自己決定の調整について復習する(30分)。
6	解剖実習にみる西洋医学・医療の思想	西洋医学的視点や論理の特殊性について説明できる。	西洋医学の歴史と倫理的視点を予習する(30分)。 解剖実習の意義と医療思想について復習する(30分)。
7	文化と医療:国際保健と文化摩擦	文化と医療の関係について説明できる。	国際保健における文化の多様性を予習する(30分)。 文化摩擦が医療に与える影響を復習する(30分)。
8	文化と医療:病気とは何か?	文化と医療の関係について説明できる。	疾病と病気の違いについて各種資料で予習する(30分)。 文化的な病気観と医療の関係を復習する(30分)。
9	サファリングとケアリング	サファリングについて説明できる。	苦悩(サファリング)の概念を予習する(30分)。 患者の苦悩に対するケアの在り方を復習する(30分)。
10	病むことの語り	医療と語り(ナラティブ)の関係について説明できる。患者・利用者が病むことをどのように考え、どのように判断を導き出すか、医療専門職の場合と対比しつつ説明できる。	ナラティブ・ベイスド・メディシンを予習する(30分)。 患者の語りと医療者の判断を対比し復習する(30分)。
11	生活者と医療専門職が出会うところ	臨床現場で患者・利用者と医療専門職の間でどのような思考・判断の調整が行われているかを説明できる。	臨床現場での意思決定プロセスを予習する(30分)。 患者と医療者の思考の調整方法を復習する(30分)。
12	超高齢社会と保健・医療	少子高齢化が患者・利用者と医療専門職の関係にどのような変化をもたらしつつあるかを説明できる。	少子高齢化と医療倫理の課題を予習する(30分)。 高齢者医療における関係性の変化を復習する(30分)。
13	作られた健康、創り出す健康	くらしの現場のケアについて説明できる。	生活の場におけるケアの概念を予習する(30分)。 くらしの現場での健康観について復習する(30分)。
14	事例検討	これまで学んだ視点や方法を踏まえて、具体的な臨床課題について課題の再設定と解決の方向性を検討できる。	提示された事例の倫理的論点を整理し予習する(30分)。 検討した解決策と判断基準をまとめ復習する(30分)。
15	総括・振り返り	医療倫理で学修したことを振り返り確認し、学習することができる。	半期で学んだ倫理的視点を全体的に予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える(30分)。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート		○		評価なし	良(2):70~79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○	○	評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	星野 晋		実務経験紹介	非常勤講師として臨床倫理学を担当した経験あり。	

科目名	ソーシャルスキル論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	対人援助職である理学療法士・作業療法士を目指す学生にとって必要なコミュニケーション(自己基盤力、人間関係力、対人支援力)について学ぶ。各テーマについて個人ワーク、グループワークを通して考える中で、社会人としての素養を知り、自己を知り、その気持ちや思いを言語化することにより理解を深める。								
一般目標	①人間関係を作る上で必要な社会性について学び、自分の課題が言語化できる。②演習や、グループでの話し合いなどの関わり合いを通じて、自己理解を深める。 ③社会人に求められる意識や行動について、各演習で体験的に学ぶことで、社会人基礎力(3つの能力)を実践的に理解する。 ④様々な状況に応じたコミュニケーションスキルについて学び、自分も他人も大切にしたい自己表現を意識して使えるようになる。								
テキスト 参考書等	授業の内容に合わせて資料を配布する。								

到達目標									
知識(認知領域) ・授業を通して、ビジネスマナーやコミュニケーションの重要性について認識し、自分の特徴(強み・課題)を把握し、説明できる。									
技術(精神運動領域) ・グループワークを通してコミュニケーションの取り方や話し合いの進め方を身につけ、自分の意見を言葉にして発表できる。									
態度(情意領域) ・社会人として必要な姿勢や考え方に基いた態度・行動がとれる。・主体的な態度で授業に参加できる。・休みなく授業に参加できる。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	医療従事者を志す人へ	医療従事者の特性を知り、自分自身が医療従事者に成長するために必要な事柄について理解できる。	医療従事者の特性をテキストで予習する(30分)。 医療者に必要な成長の要件を復習する(30分)。
2	自分を知る①	自己分析演習を行うことで自分自身について理解できる。	自己分析演習の手順をテキストで予習する(30分)。 演習を通じた自己理解の内容を復習する(30分)。
3	社会人基礎力とは	経済産業省が提唱する社会人として求められる能力について理解できる。	経済産業省が提唱する社会人基礎力を予習する(30分)。 社会人に求められる能力を整理し復習する(30分)。
4	他者から見た自分 自分の態度	他者から見た自分について知ること、自分自身の態度について考えるところに、医療従事者として求められている態度を理解できる。	客観的な自己理解の重要性を予習する(30分)。 他者視点での自分自身の課題を復習する(30分)。
5	コミュニケーションの基本的知識	コミュニケーションの種類(言語・準言語・非言語)について学び、それぞれを理解できる。	医療職に求められる基本的態度を予習する(30分)。 自身の態度の振り返りと改善点を復習する(30分)。
6	実践的コミュニケーション①	社会人にふさわしい言葉遣いや態度を理解し、実践できる。	言語・非言語等の種類をテキストで予習する(30分)。 各コミュニケーションの特性を復習する(30分)。
7	観る技術	医療従事者として何をどのようにみることができなければならないのか	社会人にふさわしい言葉遣いを予習する(30分)。 授業で学んだ適切な態度を整理し復習する(30分)。
8	聴く技術①	よい聴き手になるために必要なことか学び理解できる。	医療における観察の重要性を予習する(30分)。 観察すべきポイントを整理し復習する(30分)。
9	聴く技術②	傾聴の技法について学び理解できる。	傾聴の技法についてテキストで予習する(30分)。 よい聴き手になるための条件を復習する(30分)。
10	話す技術	自分の伝える力を知り、伝える伝えかたを学び理解できる。	伝える伝え方の基本をテキストで予習する(30分)。 自分の伝える力と課題を整理し復習する(30分)。
11	実践的コミュニケーション②	社会人・医療従事者に相応しい言葉遣いや態度を理解し、基本的な接客や電話応対ができる。また、実践できる。	電話応対や接客の基本手順を予習する(30分)。 実践した言葉遣いや応対動作を復習する(30分)。
12	自己管理①	時間管理と健康管理について学び、自分自身の状況について理解し、課題と改善方法を明確にできる。	時間管理と健康管理の基本を予習する(30分)。 自身の課題と改善方法を整理し復習する(30分)。
13	自己管理②	インターネットやSNSの正しい利用方法について認識を深め、安全な暮らしづくりに役立つことができる。	インターネットやSNSの正しい利用方法を予習する(30分)。 安全な暮らしのための注意点を復習する(30分)。
14	自己管理③	ジェネレーションギャップ等での対人関係トラブルが起きた際に、トラブル発生の原因を理解し、対応方法を習得できる。	対人トラブルの原因と対策を予習する(30分)。 トラブルへの適切な対応方法を復習する(30分)。
15	自分を知る② まとめ	自己分析演習を行うことで自分自身についてさらに理解できる。講義を総括することで医療従事者になるために必要なことが理解できる。	自己分析演習の項目をテキストで予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫、藤林 佑子		実務経験紹介	医療従事者として10年以上の経験を有する(東野)、リカレント教育者として指導経験を有する(藤林)	

科目名	解剖学 I				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	医療の対象であるヒトを理解するためには、人体の構造と機能の学習がその第一歩となる。この講義では、人体を構成する組織と細胞、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖系、内分泌系、免疫系、及びヒトの発生学について学ぶ。								
一般目標	人体の構造と機能、およびヒトの発生に関する知識を修得する。								
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 「人体の構造と機能」(医学書院)								

到達目標									
知識(認知領域) ・人体の構造と機能、及びヒトの発生について説明できる。									
技術(精神運動領域) ・なし									
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	形態学総論(解剖学とは、細胞について)	解剖学とは何かを学び、細胞の構造と機能について説明できる。	細胞の構造と機能について自分なりに予習する(30分)。 解剖学の定義と細胞の役割を復習する(30分)。
2	体をつくる組織(四大組織: 上皮・支持組織・筋・神経)	四大組織: 上皮・支持組織・筋・神経の構造、特徴について説明できる。	四大組織の種類と特徴について予習する(30分)。 各組織の構造の違いを整理し復習する(30分)。
3	内臓学総論(体の仕組みと働き)	人体を構成する器官系について、各器官の位置関係、形状、人体での役割を説明できる。	器官系の分類と位置関係を予習する(30分)。 各器官の名称と人体での役割を復習する(30分)。
4	消化器1(口とその周辺、咽頭、食道)	口とその周辺、咽頭、食道の構造、機能について説明できる。	口腔から食道までの構造を予習する(30分)。 咽頭と食道の機能について復習する(30分)。
5	消化器2(胃と腸について)	胃と腸の各器官の構造、機能について説明できる。	胃と腸の解剖学的構造を予習する(30分)。 消化管の運動と吸収の仕組みを復習する(30分)。
6	消化器3(肝臓、胆嚢、膵臓)	肝臓、胆嚢、膵臓の、各器官の構造、機能について説明できる。	肝臓・胆嚢・膵臓の構造を予習する(30分)。 消化腺の役割と分泌物の機能を復習する(30分)。
7	循環器1(心臓について)	心臓の構造と機能について説明できる。	心臓の解剖図を確認し構造を予習する(30分)。 心臓のポンプ機能と弁の役割を復習する(30分)。
8	循環器2(血管の構造、動脈系、静脈系)	血管(動脈系、静脈系)の構造と機能について説明できる。	動脈と静脈の構造の違いを予習する(30分)。 主要な血管の走行と名称を復習する(30分)。
9	呼吸器(鼻、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺)	鼻、咽頭・喉頭、気管・気管支、肺の構造と機能について説明できる。	呼吸道から肺までの構造を予習する(30分)。 ガス交換の仕組みと肺の構造を復習する(30分)。
10	内分泌(下垂体、甲状腺、松果体、副甲状腺、ラ氏島、副腎など)	下垂体、甲状腺、松果体、副甲状腺、ラ氏島、副腎の構造と機能について説明できる。	主要な内分泌器官の位置を予習する(30分)。 ホルモンの種類と標的器官を復習する(30分)。
11	泌尿器(腎臓、尿管、膀胱、尿道)	腎臓、尿管、膀胱、尿道について、構造と機能について説明できる。	腎臓から尿道までの構造を予習する(30分)。 尿生成の仕組みと排尿経路を復習する(30分)。
12	男性生殖器(生殖器の発生、精巣、精管、精嚢、前立腺など)	生殖器の発生、精巣、精管、精嚢、前立腺について、構造と機能について説明できる。	男性生殖器の構造と発生を予習する(30分)。 生殖細胞の形成と各器官の機能を復習する(30分)。
13	女性生殖器(卵巣、卵管、子宮)	卵巣、卵管、子宮の構造と機能について説明できる。	女性生殖器の構造と周期を予習する(30分)。 子宮や卵巣の形態と機能を復習する(30分)。
14	免疫系(白血球、リンパ節、胸腺、脾臓、扁桃など)	白血球、リンパ節、胸腺、脾臓、扁桃の構造と機能について説明できる。	リンパ系器官と白血球の種類を予習する(30分)。 免疫応答の仕組みと各器官の役割を復習する(30分)。
15	発生(受精、着床、胎児発生ほか)	卵細胞と受精、着床と胎盤、胎児発生のしくみについて説明できる。	受精から胎児発生の過程を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度	○			評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	中村 教泰、中村 純奈、他		実務経験紹介	大学医学部教授として解剖学講義を担当している。	

科目名	解剖学Ⅱ				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	解剖学Ⅱでは、形態学的側面から脳、脊髄、末梢神経系を学ぶ。感覚器(目、耳、皮膚、鼻、舌)で感知した内部及び外部環境の変化情報を神経系が処理して、効果器(筋・器官、腺など)の適切な反応を生み出す機構を学ぶが、認知・学習・記憶などのいわゆる「高次機能」についても学ぶ。								
一般目標	脳各部位の構造と機能を統合的に理解し、関連する知識を修得する。脳神経と脊髄神経について、構造と機能を統合的に理解し、関連する知識を修得する。人体の生命システムにおける感覚器系と末梢神経系の役割に関する知識を修得する。								
テキスト参考書等	絵で見る脳と神経(医学書院)、解剖生理学(医学書院)								

到達目標									
知識(認知領域) ・授業で取り上げた中枢神経系、末梢神経系および関連する疾患について説明できる。									
技術(精神運動領域) ・なし									
態度(情意領域) ・積極的に授業に参加することができる。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	神経系の概要: 脳の基本構造・脳室・脳脊髄液・髄膜・発生	・脳の大まかな部位について説明できる。・中枢神経系の細胞・組織学的要素について説明できる。・個体発生における肉眼的な脳の形態形成について説明できる。・髄膜、脳室および脳脊髄液について説明できる。	脳の大まかな構造について予習する(30分)。 脳脊髄液の流れを髄膜や脳室と関連付けて復習する(30分)。
2	脊髄と末梢神経系	・脊髄の構造、機能と伝導路を説明できる。・感覚神経と運動神経について説明できる。・自律神経系について説明できる。	脊髄の基本構造と自律神経を予習する(30分)。 伝導路の仕組みと末梢神経を復習する(30分)。
3	外部環境の情報入力系1: 体性感覚伝導路	・体性感覚の分類を記述できる。・体性感覚系の伝導路と中継核を記述できる。・大脳皮質の体性感覚野の機能区分を説明できる。	体性感覚の種類と経路を予習する(30分)。 感覚野の機能区分と中継核を復習する(30分)。
4	外部環境の情報入力系2: 視覚伝導路	・網膜の構造とその機能を記述できる。・網膜を構成する細胞をあげそのはたらきを説明できる。・視覚伝導路を記述できる。	網膜の構造と細胞の種類を予習する(30分)。 視覚伝導路の経路と働きを復習する(30分)。
5	外部環境の情報入力系3: 聴覚・平衡覚伝導路	・外耳、中耳、内耳の構造について説明できる。・前庭器の構造が説明できる。・聴覚、平衡覚の中継路の概略が説明できる。	耳の構造と前庭器について予習する(30分)。 聴覚と平衡覚の中継路を復習する(30分)。
6	外部環境の情報入力系4: 嗅覚伝導路・味覚伝導路	・鼻腔構造と嗅粘膜の組織構成、1次嗅覚系の構造・機能的特性、嗅球構造を説明できる。・舌構造と味蕾の組織構成、1次味覚系の構造・機能的特性を説明できる。・中枢の嗅覚路、味覚路の概略を説明できる。	鼻腔と舌の組織構成について予習する(30分)。 嗅覚・味覚の伝導路と特性を復習する(30分)。
7	内部環境情報の入出力系: 自律神経系・内臓感覚入力	自律神経の働きと役割を臓器ごとに概説できる。 自律神経系の中継性調節機序について説明できる。	各臓器における自律神経を予習する(30分)。 自律神経の中継性調節機序を復習する(30分)。
8	脳神経系1	・脳神経の名称を挙げ、解剖学的位置を説明できる。・脳神経の入出力の中継核の起始と終末領域を整理して挙げることができる。・動眼、外転、滑車、三叉神経の入出力に関する情報を整理して説明できる。	脳神経の名称と解剖的位置を予習する(30分)。 動眼・三叉神経等の入出力を復習する(30分)。
9	脳神経系2	・顔面神経、舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経の入出力に関する情報を整理して説明できる。・脳神経麻痺について説明できる。	顔面・迷走・舌下神経等を予習する(30分)。 各種脳神経麻痺の症状を復習する(30分)。
10	小脳	・小脳の構造を説明できる。・苔状線維系と登上线維系に基づき小脳の細胞構築を説明できる。・小脳系の運動制御について説明できる。小脳疾患と運動障害について説明できる。	小脳の構造について予習する(30分)。 小脳の細胞構築と運動制御、小脳疾患を復習する(30分)。
11	大脳基底核	・大脳基底核系の構成を説明できる。・大脳基底核系の入出力、主なループについて説明できる。・大脳基底核疾患を説明できる。	大脳基底核系の構成を予習する(30分)。 大脳基底核系の入出力と大脳基底核疾患を復習する(30分)。
12	運動系の階層構造: いわゆる錐体路・錐体外路系	・いわゆる錐体路系といわゆる錐体外路系を混乱なく説明できる。・運動系の階層の中で大脳基底核と小脳系の位置付けを説明できる。・運動の中継領域と階層性について説明ができる。	運動系における階層構造を予習する(30分)。 錐体路と錐体外路系の違いを復習する(30分)。
13	視床下部	・視床下部の構造と機能を自律機能と関連づけて概説できる。・体温調節、摂食行動、飲水行動の調節メカニズムを説明できる。・性行動、内分泌調整における視床下部の役割を説明できる。	視床下部の構造と自律機能を予習する(30分)。 体温調節や内分泌系の役割を復習する(30分)。
14	大脳辺縁系	・大脳辺縁系の構造を自律機能や高次機能と関連づけて概説できる。・情動における扁桃体の役割、記憶における海馬の役割について説明できる。・脳内報酬系について説明できる。	大脳辺縁系の構造と機能を予習する(30分)。 扁桃体や海馬の機能を復習する(30分)。
15	大脳皮質と高次機能	・大脳皮質の構造と機能局在を説明できる。・記憶の成立過程、短期記憶と長期記憶の性質について述べる事ができる。・言語中枢の機能、言語障害について説明できる。	大脳皮質の機能局在について予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4): 90点以上
小テスト				評価無し	優(3): 80~89点
宿題授業外レポート				評価無し	良(2): 70~79点
授業態度				評価無し	可(1): 60~69点
発表・作品				評価無し	不可(0): 60点未満 未修得
演習				評価無し	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	小西 博之		実務経験紹介	国立大学医学部で解剖学を20年教えている。	

科目名	解剖学ⅢA				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	3階基礎医学実習室
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり、医学の基礎である。本講義では、運動器系の基礎となる骨と関節について、講義や小グループによる演習を行って学習する。								
一般目標	①骨の名称や部位名など骨に関する基礎知識を習得する。また、各骨の構造の特徴など基本的構造について知識を習得する。 ②頭部、四肢、体幹に存在する関節の名称と構造の概要について知識を習得する。								
テキスト 参考書等	教科書:プロメテウス解剖学 コア アトラス 最新版 (医学書院) /PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版(南江堂) 参考書:解剖学講義 南山堂、系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)								

到達目標

知識(認知領域)
 ・骨の構造、名称、部位名称、特徴を覚えることができる。また、骨模型を模写できる。
 ・関節の構造、名称を覚えることができる。

技術(精神運動領域)
 ・骨模型を使用して、名称、部位名称を説明できる。

態度(情意領域)
 ・授業に意欲的に参加できる。
 ・課題(指定された骨をスケッチブックに模写する)を完成し、提出できる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	解剖学総論	骨解剖を学ぶにあたり基礎的な医学的用語を理解し説明できる。	解剖生理学p9～p14を一読しておく。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
2	骨学総論(骨格系)	骨の構造や発生について総論的に理解し説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
3	全身骨格	骨格全体の成り立ちを把握するとともに、個々の骨の名称や数を説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
4	骨と関節1(鎖骨・肩甲骨)	鎖骨、肩甲骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
5	骨と関節2(上腕骨)	上腕骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
6	骨と関節3(尺骨・橈骨)	尺骨・橈骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
7	骨と関節4(手の骨)	手部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
8	骨と関節5(胸骨・肋骨)	胸骨・肋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
9	骨と関節6(頭蓋骨)	頭蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
10	骨と関節7(寛骨)	寛骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
11	骨と関節8(大腿骨・膝蓋骨)	大腿骨・膝蓋骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
12	骨と関節9(脛骨・腓骨)	脛骨・腓骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
13	骨と関節10(足の骨)	足部の骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
14	骨と関節11(椎骨・仙骨・尾骨)	椎骨・仙骨・尾骨の各部位の名称や構成の特徴について説明できる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
15	まとめ	骨解剖学(総論、上肢、下肢)について復習し、各部位を説明できる。また、課題を完成させることができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した骨の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数

担当教員 山崎 由真 実務経験紹介 作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。

科目名	解剖学ⅢB				単位数	2	時間教	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	3階基礎医学実習室
授業概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。本講義では、運動器系の基本となる筋について学習する。								
一般目標	①骨格筋の一般的な構造と機能についての知識を習得する。 ②人体の主要な骨格筋について、その構造(起始・停止、走行、神経支配など)を知り、その作用についての知識を習得する。								
テキスト 参考書等	教科書:プロメテウス解剖学 コアアトラス 最新版(医学書院)/PTOT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版(南江堂) 参考書:解剖学講義(南山堂)/系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)								

到達目標									
知識(認知領域) ・筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配を覚え、筋模型で説明できる。 ・筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。									
技術(精神運動領域) ・筋模型を使用して、部位名称を説明できる。									
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。 ・授業に出席する。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	筋学総論、運動方向の名称	筋組織の種類や特徴、骨格筋の基本的構造について説明することができる。骨格筋の生理的作用や筋による運動方向などの基本的作用について説明できる。	プロメテウスp396、p500に記載される筋肉名の読み方(ふりがな)を調べておく。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
2	肘関節に作用する筋	肘関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
3	肩甲上腕関節の筋	肩甲上腕関節周囲の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
4	上肢帯の筋	上肢帯の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
5	手外在筋①	手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
6	手外在筋②	手外在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
7	手内在筋	手内在筋に含まれる筋の名称と構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
8	内・外寛骨筋	内・外寛骨筋の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
9	深層外旋六筋	深層外旋六筋について各筋の名称と構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
10	大腿前面の筋	大腿前面の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
11	大腿後面、内側の筋	大腿後面、内側の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
12	下腿前面、外側面の筋	下腿前面、外側面の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
13	下腿後面の筋	下腿後面の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
14	足底、背部、腹部の筋	足部、背部、腹部の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)
15	顔、頸部の筋	顔、頸部の各筋の名称や構造について説明することができる。	教科書および配布資料で該当範囲を予習する。(30分) 授業で学習した筋の名称・部位名称・特徴を復習する。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	山崎 由真		実務経験紹介	作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。	

科目名	解剖学ⅢC				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	治療室
授業概要	医療の対象であるヒトを理解するためには、人体の構造と機能の学習がその第一歩となる。この実習では、以下を目標に学習する。								
一般目標	①評価・治療の指標となる骨を正確に触察できる技術を習得する。 ②筋を正確に触察できる技術を習得する。								
テキスト 参考書等	【教科書】機能解剖学的触診技術 第2版 上肢/下肢・体幹 (メジカルビュー社) 【参考書】基礎運動学(医学書院) プロメテウス解剖学 コア アトラス 第4版 医学書院								

到達目標

知識(認知領域)
①筋:筋の名称、起始、停止、作用、神経支配、走行を覚え、筋模型で説明できる。
②筋の構造上の特徴を覚え、説明できる。

技術(精神運動領域)
①筋の走行を正確に触診することができる。
②患者に不快感を与えない触り方が出来る。

態度(情意領域)
・授業に積極的に参加することができる。
・患者に不快感を与えない立ち居振る舞いが出来る。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	触察:オリエンテーション	あらゆる運動機能系評価の基礎となる骨・筋の触診について、その概要・意義を理解することができる。	触診の意義や概要について教科書を読み予習する。(30分) 授業内容を復習し、次回の小テストに備える。(30分)
2	触察:上肢の骨	上肢骨のランドマークを触診することができる。	上肢の骨のランドマークを教科書で確認する。(30分) 触診した骨の位置を復習し、次回小テストに備える。(30分)
3	触察:上肢帯の筋	上肢帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	上肢帯の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
4	触察:上肢の筋	上肢の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	上肢の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
5	触察:前腕の筋	前腕の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	前腕の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
6	触察:手指の筋	手指の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	手指の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
7	触察:上肢まとめ	試験に備え上肢の筋について復習し、理解を深めることができる。	これまで学習した上肢の骨・筋全体を復習する。(30分) 上肢領域全体を復習し、次回小テストに備える。(30分)
8	触察:頸部の筋	頸部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	頸部の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
9	触察:下肢の骨・靭帯	下肢骨のランドマーク、靭帯を触診することができる。	下肢の骨のランドマークと靭帯を確認する。(30分) 触診した骨・靭帯を復習し、次回小テストに備える。(30分)
10	触察:骨盤帯の筋	骨盤帯の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	骨盤帯の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
11	触察:大腿の筋	大腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	大腿の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
12	触察:足部の骨	足部の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	足部の骨・筋の起始・停止を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
13	触察:下腿の筋	下腿の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	下腿の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
14	触察:体幹の筋	体幹の筋について、その起始・停止・筋走行を正しい筋収縮を行わせつつ触診ができる。	体幹の筋の起始・停止・作用を確認する。(30分) 触診部位を復習し、次回小テストに備える。(30分)
15	触察:下肢・体幹まとめ	試験に備え体幹・下肢の筋について復習し、理解を深めることができる。	下肢・体幹の骨・筋全体を総復習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○	○	○	100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也		実務経験紹介	病院勤務において15年間、筋疾患の治療に携わった経験あり	

科目名	運動学 I				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT/OT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	解剖学・生理学を基礎として、関節運動に関わる身体の構造や、上肢・頸部・顔面・胸部の関節運動が起こるメカニズムについて学ぶ。								
一般目標	上肢・頸部・顔面・胸部の関節運動について説明でき、そのメカニズムについての知識を身につける。								
テキスト参考書等	基礎運動学 第7版 中村隆一 著(医歯薬出版) 基礎運動学テキスト(南江堂)								

到達目標									
知識(認知領域) 各関節の構造の特徴と機能について説明できる。 各関節運動の主動筋、補助筋、拮抗筋を列挙できる。									
技術(精神運動領域) なし									
態度(情意領域) 授業に出席し、主体的に参加できる。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	運動学とリハビリテーション①	本講義の概要を理解できる。 運動学とはどのような学問か、その重要性も理解し説明できる。	基礎運動学テキストp3～12を読む(30分)。 基礎運動学テキストp3～12を読み直して復習する(30分)。
2	運動学とリハビリテーション②	姿勢、動作、行為の違いを理解し説明できる。 骨と関節の運動の分析を理解し説明できる。	姿勢と動作の違いについて予習する(30分)。 骨と関節の運動分析の方法を復習する(30分)。
3	神経筋骨格系の機能①	関節の構造と機能を理解し説明できる。	関節の基本構造について予習する(30分)。 各関節の種類と特徴を整理して復習する(30分)。
4	神経筋骨格系の機能②	筋の構造と機能を理解し説明できる。	筋の微細構造について予習する(30分)。 筋収縮の仕組みと種類を復習する(30分)。
5	肩関節の機能と構造①	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肩甲骨の骨と関節の名称を確認する(30分)。 肩関節の動きと関与する筋を復習する(30分)。
6	肩関節の機能と構造②	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肩関節の靭帯の役割を予習する(30分)。 肩の安定性を高める筋の機能を復習する(30分)。
7	肩関節の機能と構造③	肩関節の構造と機能について説明できる。 肩関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肩関節の複合的な動きを予習する(30分)。 肩関節全体の構造と機能の総復習をする(30分)。
8	肘関節の機能と構造①	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肘関節を構成する骨と名称を予習する(30分)。 肘の屈伸に関わる筋と動きを復習する(30分)。
9	肘関節の機能と構造②	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肘の靭帯と関節包の構造を予習する(30分)。 前腕の回内回外運動の仕組みを復習する(30分)。
10	肘関節の機能と構造③	肘関節の構造と機能について説明できる。 肘関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	肘関節の可動域と制限因子を予習する(30分)。 肘関節周囲の筋の役割を整理して復習する(30分)。
11	手関節・手指の機能と構造①	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 手関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	手根骨の名称と並びを予習する(30分)。 手関節の動きと主動筋を復習する(30分)。
12	手関節・手指の機能と構造②	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 手関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	指の関節の名称と構造を予習する(30分)。 手指の複雑な動きと筋の作用を復習する(30分)。
13	手関節・手指の機能と構造③	手関節・手指の構造と機能について説明できる。 手関節の動きが筋や靭帯で説明できる。	手の把持動作の種類を予習する(30分)。 手関節と手指の機能について復習する(30分)。
14	顔面の機能①	顔面の構造と機能について説明できる。 表情や咀嚼が筋や靭帯で説明できる。	顔面の筋の名称と配置を予習する(30分)。 表情筋と咀嚼筋の働きを復習する(30分)。
15	顔面の機能②	顔面の構造と機能について説明できる。 表情や咀嚼が筋や靭帯で説明できる。	顔面の感覚と運動の制御を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	東野 幸夫		実務経験紹介	作業療法士として臨床・教育経験を10年以上有する	

科目名	運動学Ⅱ				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	解剖学・生理学を基礎として、関節運動に関わる身体の構造や、関節運動が起こるメカニズムについて体幹・下肢関節・歩行の知識を習得する。								
一般目標	体幹・下肢の関節運動について説明でき、正常歩行の特徴についての知識を身に付けることができる。								
テキスト 参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎運動学 7版(医歯薬出版) ・基礎運動学テキスト(南江堂) 								

到達目標

知識(認知領域)
 ①各関節の構造の特徴と機能について説明できる。 ②各関節運動の主動作筋、補助動作筋、拮抗筋を列挙できる。
 ③各関節運動のメカニズムを説明できる。 ④正常歩行に関する用語を正しく使用し、歩行運動を説明できる。

技術(精神運動領域)
なし

態度(情意領域)
授業に積極的に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	講義オリエンテーション 下肢・体幹の構造	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の概要を理解できる。 ・下肢、体幹の全体像を理解し、説明できる。 	教科書を読み、下肢・体幹の全体像を予習する(30分)。 教科書を読み、下肢・体幹の基本を復習する(30分)。
2	股関節の運動 ① 構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・骨盤環・仙腸関節・股関節の構造と機能について説明できる。 	骨盤環・仙腸関節・股関節の構造を予習する(30分)。 股関節周囲の解剖学的特徴と機能を復習する(30分)。
3	股関節の運動 ② 筋の働き 運動メカニズム	<ul style="list-style-type: none"> ・関節運動に関する用語について説明できる。 ・股関節運動に作用する筋について説明できる。 ・股関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。 	股関節運動に関わる用語と作用筋を予習する(30分)。 股関節の骨運動と関節運動の仕組みを復習する(30分)。
4	膝関節の運動 ① 構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・膝関節の構造と機能について説明できる。 	膝関節の骨格構造と支持組織について予習する(30分)。 膝関節の機能解剖について要点を復習する(30分)。
5	膝関節の運動 ② 筋の働き 運動メカニズム	<ul style="list-style-type: none"> ・膝関節運動に作用する筋について説明できる。 ・膝関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。 	膝関節に作用する筋と運動方向を予習する(30分)。 膝関節の骨運動・関節運動のメカニズムを復習する(30分)。
6	足関節の運動 ① 構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・足関節の構造と機能について説明できる。 	足関節・足部の骨構造と関節分類を予習する(30分)。 足関節の構造的特徴と機能について復習する(30分)。
7	足関節の運動 ② 筋の働き 運動メカニズム	<ul style="list-style-type: none"> ・足関節運動に作用する筋について説明できる。 ・足関節運動の骨運動と関節運動について説明できる。 	足関節運動に作用する筋と走行を予習する(30分)。 足関節の複雑な運動メカニズムを整理し復習する(30分)。
8	頸部・体幹(脊柱)の運動 ① 構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・頸椎、体幹(脊柱)の構造と機能について説明できる。 	頸椎・胸椎・腰椎の基本構造を予習する(30分)。 脊柱全体の構造と可動性の特徴を復習する(30分)。
9	頸部・体幹(脊柱)の運動 ② 構造と機能	<ul style="list-style-type: none"> ・頸椎、体幹(脊柱)の構造と機能について説明できる。 	頸部から体幹の連結と支持組織を予習する(30分)。 脊柱の構造に関する知識を深く掘り下げ復習する(30分)。
10	頸部・体幹(脊柱)の運動 ③ 筋の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・頸椎、体幹(脊柱)運動に作用する筋について説明できる。 	脊柱の屈曲・伸展に関わる筋群を予習する(30分)。 頸部・体幹の運動を制御する筋の働きを復習する(30分)。
11	頸部・体幹(脊柱)の運動 ④ 筋の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・頸椎、体幹(脊柱)運動に作用する筋について説明できる。 	脊柱の回旋・側屈に関わる筋群を予習する(30分)。 体幹運動の協調的な筋活動について復習する(30分)。
12	呼吸運動	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸運動について理解し、説明できる。 	呼吸に関わる骨格と呼吸筋の基礎を予習する(30分)。 胸郭の運動と呼吸メカニズムの関係を復習する(30分)。
13	歩行の運動学 ①基本用語 の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行に関する基本用語について説明できる。 ・歩行周期について説明できる。 	歩行周期や歩幅などの基本用語を予習する(30分)。 歩行周期の区分と各相の定義を正しく復習する(30分)。
14	歩行の運動学 ②関節運動 と重心移動	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行中の下肢関節運動について説明できる。 ・歩行中の重心移動・床反力について説明できる。 	歩行中の下肢関節の角度変化を予習する(30分)。 重心移動と床反力の関係について図を書き復習する(30分)。
15	歩行の運動学 ③筋活動	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行中の筋活動について説明できる。 	歩行周期ごとの主要な活動筋を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える(30分)。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	友原 望美		実務経験紹介	理学療法士としての臨床経験を5年以上有し、運動器疾患理学療法介入経験もある。	

科目名	生理学 IA				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	人の体では、酸素や栄養物を全身に運び、逆に二酸化炭素や老廃物を取り除いている。これには、肺などの呼吸器、心臓や血管など循環器および血液が重要な役割を果たしている。この授業では、呼吸器系と循環器系の臓器の構造と機能と血液の働きを学習する。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器系の構造、機能、病態に関する知識を修得する。 血液の組成と機能に関する知識を修得する。 循環器系の構造、機能、病態に関する知識を修得する。 								
テキスト参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)								

到達目標

知識(認知領域)
授業で取り上げた臓器の構造と機能について説明できる。

技術(精神運動領域)
なし

態度(情意領域)
なし

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	血液の循環と心臓の構造	<ul style="list-style-type: none"> 体内の血液循環を簡単に説明できる。 心臓の構造を簡単に説明できる。 胎児循環を簡単に説明できる。 	心臓の解剖学的構造を自分のできる方法で予習する(30分)。 体循環と肺循環の経路を整理し復習する(30分)。
2	心臓の収縮と血液の拍出	<ul style="list-style-type: none"> 血流量や心周期を簡単に説明できる。 心室の働きと前負荷、後負荷、収縮性の関係を簡単に説明できる。 心筋収縮・弛緩のメカニズムを簡単に説明できる。 	心周期と心筋の収縮機序を予習する(30分)。 前負荷・後負荷と拍出量の関係を復習する(30分)。
3	血管の構造と働き	<ul style="list-style-type: none"> 主な血管の走行を説明できる。 血管の構造と働きを簡単に説明できる。 	主要な動脈・静脈の名称と走行を確認する(30分)。 血管の層構造と各血管の役割を復習する(30分)。
4	血圧 リンパ系	<ul style="list-style-type: none"> 血圧の基本事項や各部位の血圧の変化を説明できる。 血圧の測定法を説明できる。 リンパ系の構造と働きを簡単に説明できる。 	血圧の測定原理とリンパ系の基礎を予習する(30分)。 血圧の変化要因とリンパの働きを復習する(30分)。
5	血液循環の調節(1)	<ul style="list-style-type: none"> 血液循環の神経性調節を簡単に説明できる。 血液循環の液性調節を簡単に説明できる。 	循環調節に関わる神経とホルモンを予習する(30分)。 神経性と液性調節の機序を整理し復習する(30分)。
6	血液循環の調節(2)	<ul style="list-style-type: none"> 微小循環の調節を簡単に説明できる。 各部位での血流の状態を簡単に説明できる。 運動時の循環調節を簡単に説明できる。 	運動時の身体変化と局所血流を予習する(30分)。 微小循環の仕組みと運動時調節を復習する(30分)。
7	心臓の興奮とその伝播	<ul style="list-style-type: none"> 心筋細胞の電気興奮(活動電位)を簡単に説明できる。 心臓の電気興奮の伝播を簡単に説明できる。 	心筋の活動電位と刺激伝導系を予習する(30分)。 心臓の電氣的興奮が伝わる順序を復習する(30分)。
8	心電図	<ul style="list-style-type: none"> 心臓の電気活動を簡単に説明できる。 心電図の記録と意味を簡単に説明できる。 	心電図の基本波形と誘導法を予習する(30分)。 各波形の意味と心臓の活動を紐付け復習する(30分)。
9	循環器系の病態生理	<ul style="list-style-type: none"> 浮腫を簡単に説明できる。 起立性低血圧症を簡単に説明できる。 心不全を簡単に説明できる。 	浮腫や心不全の定義をテキストで予習する(30分)。 起立性低血圧などの病態生理を復習する(30分)。
10	呼吸器の構造と仕組み	<ul style="list-style-type: none"> 上気道の構造と仕組みを簡単に説明できる。 下気道と肺の構造と仕組みを簡単に説明できる。 胸膜・縦隔の構造を簡単に説明できる。 	上気道・下気道・肺の解剖図を確認する(30分)。 胸膜と縦隔の構造および呼吸器系を復習する(30分)。
11	ガス交換とガス運搬	<ul style="list-style-type: none"> ガス交換について簡単に説明できる。 ガス運搬について簡単に説明できる。 換気と血流について簡単に説明できる。 	肺胞でのガス交換の仕組みを予習する(30分)。 酸素と二酸化炭素の運搬機序を復習する(30分)。
12	呼吸機能と検査	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸器運動の調節について簡単に説明できる。 呼吸気量について簡単に説明できる。 呼吸器系の病態生理について簡単に説明できる。 	呼吸運動の調節と肺活量の項目を予習する(30分)。 呼吸機能検査の意味と病態生理を復習する(30分)。
13	血液の組成と機能/赤血球	<ul style="list-style-type: none"> 血液の組成と機能について簡単に説明できる。 赤血球の構造と機能について簡単に説明できる。 血液型について簡単に説明できる。 	血液の成分と赤血球の寿命を予習する(30分)。 血液の役割と血液型の判定法を復習する(30分)。
14	白血球の働き/血液凝固	<ul style="list-style-type: none"> 白血球の種類と機能について簡単に説明できる。 血液凝固と線維素溶解について簡単に説明できる。 	白血球の種類と止血のメカニズムを予習する(30分)。 各血球の機能と血液凝固の過程を復習する(30分)。
15	リンパ球と免疫	<ul style="list-style-type: none"> リンパ球の種類と機能について簡単に説明できる。 免疫とその異常について簡単に説明できる。 	リンパ球の種類と免疫反応を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	宮本 達雄		実務経験紹介	大学医学部教授として生理学の講義を担当している	

科目名	生理学 I B				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	植物性機能として、消化と吸収、腎臓と排泄、内分泌、性と生殖を学ぶ。これらは健康維持や疾患の理解に重要であり、基礎的な知識の習得を期待する。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養の消化と吸収に関する知識を修得する。 ・体液の調節と尿の生成に関する知識を修得する。 ・内臓機能の調節、生殖の仕組みに関する知識を修得する。 								
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)								

到達目標

知識(認知領域)	授業で取り上げた臓器の構造と機能について説明できる。
技術(精神運動領域)	なし
態度(情意領域)	積極的に授業に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	消化・吸収	消化・吸収について簡潔に説明できる。	教科書の消化と吸収の範囲を予習する(30分)。 消化の定義と栄養素の吸収を復習する(30分)。
2	消化液の分泌	消化液の分泌について簡潔に説明できる。	消化液の種類と役割について予習する(30分)。 各消化液の分泌調節機序を復習する(30分)。
3	消化管運動	消化管運動について簡潔に説明できる。	消化管の構造と運動の基礎を予習する(30分)。 蠕動運動や分節運動の仕組みを復習する(30分)。
4	腎臓・ネフロン	腎臓・ネフロンの機能について簡潔に説明できる。	腎臓の解剖学的構造とネフロンを予習する(30分)。 ネフロンの各部位の名称と機能を復習する(30分)。
5	尿生成・腎機能	尿生成・腎機能について簡潔に説明できる。	尿が生成されるまでの過程を予習する(30分)。 ろ過・再吸収・分泌の仕組みを復習する(30分)。
6	尿成分・排尿	尿成分・排尿について簡潔に説明できる。	尿の組成と排尿反射の基礎を予習する(30分)。 異常尿の成分と排尿の調節を復習する(30分)。
7	酸-塩基平衡	酸-塩基平衡について簡潔に説明できる。	体液のpH調節の仕組みを予習する(30分)。 バッファー系と呼吸・腎の調節を復習する(30分)。
8	内分泌・ホルモン作用様式	内分泌・ホルモン作用様式について簡潔に説明できる。	ホルモンの種類と受容体を予習する(30分)。 フィードバック機構の仕組みを復習する(30分)。
9	視床下部-下垂体系	視床下部-下垂体系の機能について簡潔に説明できる。	視床下部と下垂体の位置と関係を予習する(30分)。 各種放出ホルモンと標的器官を復習する(30分)。
10	甲状腺・カルシウム代謝	甲状腺・カルシウム代謝について簡潔に説明できる。	甲状腺ホルモンと副甲状腺を予習する(30分)。 血中カルシウム濃度の調節を復習する(30分)。
11	膵臓・糖尿病	膵臓の機能と糖尿病について簡潔に説明できる。	膵臓の解剖とインスリンを予習する(30分)。 血糖調節の機序と糖尿病の基礎を復習する(30分)。
12	副腎皮質・副腎髄質	副腎皮質・副腎髄質の機能について簡潔に説明できる。	副腎から分泌されるホルモンを予習する(30分)。 ストレス反応と副腎の機能を復習する(30分)。
13	精巣・卵巣	精巣・卵巣の機能について簡潔に説明できる。	性腺の構造と性ホルモンを予習する(30分)。 生殖器の構造とホルモン調節を復習する(30分)。
14	男性の生殖機能	男性の生殖機能について簡潔に説明できる。	男性の生殖器系と精子形成を予習する(30分)。 男性の性機能と調節機序を復習する(30分)。
15	女性の生殖機能	女性女性の生殖機能について簡潔に説明できる。	女性の生殖器系と性周期を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	美津島 大、宮本 達雄		実務経験紹介	大学医学部教授として生理学の講義を担当している(宮本)。	

科目名	生理学Ⅱ				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	人の脳は身体内外の環境変化を受け入れ、それに対処するために種々の生理的反応や適応的、さらには創造的な行動をひき起こす。これらの生体機能がどのようにして調節されているかを理解するために、神経系の基本的な働きとさらに高次な働きについて学習する。								
一般目標	神経生理学の基本知識を習得する。 生体における神経系の役割を理解する。								
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)								

到達目標									
知識(認知領域) 教科書をベースに神経系の重要事項について説明できる。									
技術(精神運動領域) なし									
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。									

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	生理学とホメオスタシス	生体の恒常性維持について説明できる。	教科書の恒常性に関連した項目を読み予習する(30分)。 生体の恒常性維持の仕組みを復習する(30分)。
2	電気信号による伝達	静止膜電位・活動電位・シナプスなど神経科学の基本用語が説明できる。	静止膜電位と活動電位の基礎を予習する(30分)。 神経科学の基本用語を整理し復習する(30分)。
3	興奮の伝導とシナプス伝達	伝導と伝達の違いが理解できる。主要な神経伝達物質の性質を説明できる。	伝導と伝達のメカニズムを予習する(30分)。 主要な神経伝達物質の性質を復習する(30分)。
4	脊髄と脳	脊髄の構造を図示して説明できる。脳神経の役割を分類できる。	脊髄の構造と脳神経の基礎を予習する(30分)。 脊髄の構造図と脳神経の役割を復習する(30分)。
5	脳神経と自律神経	末梢神経系の機能が説明できる。	末梢神経系の機能について予習する(30分)。 自律神経系の二重支配について復習する(30分)。
6	運動系1(神経と筋収縮)	興奮収縮関連を説明できる。	骨格筋の構造と収縮の基礎を予習する(30分)。 興奮収縮関連の過程を整理し復習する(30分)。
7	運動系2(脊髄反射)	膝蓋腱反射のメカニズムと屈曲反射を説明できる。	膝蓋腱反射と屈曲反射の基礎を予習する(30分)。 各種反射の経路とメカニズムを復習する(30分)。
8	運動系3(脳による運動制御)	大脳基底核・小脳のはたらきを説明できる。	大脳基底核と小脳の機能を予習する(30分)。 脳による運動制御の仕組みを復習する(30分)。
9	これまでの復習(1)	これまでのキーワードを自分の言葉で説明できるか、理解度の確認ができる。	第1回から第8回の重要語句を予習する(30分)。 キーワードを自分の言葉で説明し復習する(30分)。
10	感覚系1(体性感覚)	触覚・温度感覚がどのように脳に送られ、脳で表現されているのか理解をする。	触覚や温度感覚の伝導路を予習する(30分)。 感覚が脳で受容される仕組みを復習する(30分)。
11	感覚系2(視覚)	光の受容機構・網膜視細胞のはたらき・視覚伝導路・視覚系反射の意義を説明できる。	網膜の構造と視覚伝導路を予習する(30分)。 光の受容機構と視覚反射を復習する(30分)。
12	感覚系3(聴覚・平衡覚)	音の受容機構・聴覚伝導路を説明できる。	耳の構造と聴覚伝導路を予習する(30分)。 音の受容と平衡感覚の仕組みを復習する(30分)。
13	感覚系4(味覚・嗅覚・痛覚)	味覚・嗅覚の受容機構・神経支配を説明できる。	化学受容器の基礎知識を予習する(30分)。 味覚・嗅覚の神経支配を整理し復習する(30分)。
14	脳の統合機能	覚醒時・睡眠時の脳波が説明できる。本能行動について説明できる。	睡眠と覚醒の脳波について予習する(30分)。 本能行動と脳の統合機能を復習する(30分)。
15	これまでの復習(2)	これまでのキーワードを自分の言葉で説明できるか、理解度の確認ができる。	全講義の重要キーワードを予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	木田 裕之		実務経験紹介	山口大学医学部にて生理学講義を10年以上担当している	

科目名	生理学Ⅲ				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	筋①～⑤では、骨格筋の構造や特徴および不随意筋の特徴について学習する。運動に対する呼吸循環応答①～③では、体力の概要を学び、運動処方について学び高年次へつなげる。運動学習①～④では、学習の諸理論から運動における学習理論を学び、運動技能・練習・訓練などを理解する。体温調整①～③では熱の出入り、体温調節の機序、体温の分布、体温の日内変動などについて学ぶ。								
一般目標	筋の構造、収縮メカニズム、収縮種類などを修得する。体力の概要を学び、運動処方の基礎を修得する。学習の諸理論から運動における学習理論を理解し、運動技能・練習・訓練の意味や方法を身につける。体温調整では体温調節の機序を修得する。								
テキスト 参考書等	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院) 基礎運動学 第7版(医歯薬出版) 基礎運動学テキスト(南江堂)								

到達目標

知識(認知領域)	講義で取り上げた内容について説明できる。
技術(精神運動領域)	なし
態度(情意領域)	積極的に授業に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	筋①	・筋肉の種類とその構造・機能について説明できる。 ・骨格筋の微細構造について説明できる。	筋肉の種類と構造についてテキストを読み予習する(30分)。 骨格筋の微細構造と機能を整理し復習する(30分)。
2	筋②	・骨格筋収縮・弛緩のメカニズムについて説明できる。	筋収縮のメカニズムについてテキストで予習する(30分)。 収縮と弛緩のプロセスを復習して理解しておく(30分)。
3	筋③	・筋線維の種類、特性、筋収縮の基礎的性質について説明できる。	筋線維の種類や特性について基礎知識を確認する(30分)。 筋収縮の性質と特性をまとめ授業内容を復習する(30分)。
4	筋④	・不随意筋(心筋)の収縮の特徴について説明できる。	心筋など不随意筋の特徴について予習する(30分)。 骨格筋と心筋の収縮の違いについて復習する(30分)。
5	筋⑤	・不随意筋(平滑筋)の収縮の特徴について説明できる。	平滑筋の構造と収縮の特徴について予習する(30分)。 不随意筋全般の性質を整理し理解を深める(30分)。
6	運動に対する呼吸循環応答①	・体力、身体運動のエネルギー代謝について説明できる。	体力とエネルギー代謝の基礎について予習する(30分)。 身体運動時の代謝の仕組みを振り返り復習する(30分)。
7	運動に対する呼吸循環応答②	・メディカルチェック、運動負荷試験(様式、実施上の注意)について説明できる。	メディカルチェックと負荷試験について予習する(30分)。 運動負荷試験の実施上の注意点を整理し復習する(30分)。
8	運動に対する呼吸循環応答③	・運動処方の組み方、実際に行う際の手順、要点を説明できる。 ・運動処方に関わる訓練の諸原理を説明できる。	運動処方の基礎と訓練の諸原理について予習する(30分)。 運動処方の手順と要点をまとめ小テストに備える(30分)。
9	運動学習①	・学習と記憶、学習の諸理論について説明できる。	学習と記憶の諸理論についてテキストを読み予習する(30分)。 学習理論の基礎を振り返り授業内容を復習する(30分)。
10	運動学習②	・運動技能、運動学習の諸理論、練習と訓練について説明できる。	運動技能と練習の理論についてテキストで予習する(30分)。 練習と訓練の違いを理解し授業内容を復習する(30分)。
11	運動学習③	・運動技能、運動学習の諸理論、練習と訓練について説明できる。	運動学習の諸理論と実践方法について予習する(30分)。 効率的な練習方法の理論を整理し復習する(30分)。
12	運動学習④	・運動学習の神経生物学について説明できる。	運動学習の神経生物学的側面について予習する(30分)。 運動学習の脳内メカニズムをまとめ復習する(30分)。
13	体温調整①	・熱の産生、喪失について説明できる。	熱の産生と喪失の仕組みについて予習する(30分)。 体温調節の基本原則を整理し授業内容を復習する(30分)。
14	体温調整②	・体温調節の機序が説明できる。	体温調節の機序についてテキストを読み予習する(30分)。 自律的な体温調節反応について理解を深める(30分)。
15	体温調整③	・運動が体温に与える影響について説明できる。	運動が体温に与える影響について予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史、東野 幸夫		実務経験紹介	理学療法士として臨床、研究に従事した経験を有する(川崎)、作業療法士として臨床経験を有する(東野)	

科目名	生理学実習				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	基礎医学実習室、治療室
授業概要	ヒトを用いた生理学実習を行い、作業療法・理学療法に必要な各種生理的反応への理解を深める。								
一般目標	ヒトを用いた生理学実習を行い、得られた情報から人体の機能を評価する方法を習得する。								
テキスト 参考書等	系統看護学講座専門基礎分野 解剖生理学 (医学書院)								

到達目標

知識(認知領域)
各種生理的反応について説明することができる。

技術(精神運動領域)
各種生理的反応を引き出すことができる。

態度(情意領域)
授業に積極的に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	心電図①	心電図について理解し、説明することができる。	テキストの心電図の基礎項目を予習する。(30分) 心電図の基本波形と名称を復習する。(30分)
2	心電図②	心電図について理解し、説明することができる。	解剖生理学の心臓の構造を復習する。(30分) 授業で学んだ心電図の原理を再確認する。(30分)
3	心電図③	心電図を測定する意義・目的・方法を説明し、データを分析できる。	電極の貼付位置と測定手順を予習する。(30分) 正確な測定手技と注意点を振り返る。(30分)
4	心電図④	心電図を測定する意義・目的・方法を説明し、データを分析できる。	波形の読み取りと分析方法を予習する。(30分) 実習データの分析結果を整理し復習する。(30分)
5	尿検査、血糖値検査①	尿検査、血糖値検査について理解し、説明することができる。	尿生成の仕組みと糖代謝の基礎を予習する。(30分) 検査項目の基準値と意味を復習する。(30分)
6	尿検査、血糖値検査②	尿検査、血糖値検査について理解し、説明することができる。	検査に必要な器具と試薬を予習する。(30分) 検査手順と安全管理について復習する。(30分)
7	尿検査、血糖値検査③	尿検査、血糖値検査を測定する意義・目的・方法を説明し、データを分析できる。	検査の臨床的意義と目的を予習する。(30分) 測定結果の解釈と誤差要因を振り返る。(30分)
8	尿検査、血糖値検査④	尿検査、血糖値検査を測定する意義・目的・方法を説明し、データを分析できる。	データの集計方法と分析視点を予習する。(30分) 分析結果をまとめ小テストに備える。(30分)
9	呼吸機能検査①	呼吸のメカニズムを説明できる。	解剖生理学の呼吸器系を予習する。(30分) 呼吸のメカニズムと換気動態を復習する。(30分)
10	呼吸機能検査②	呼吸機能検査の意義・目的・方法を説明し、実施できる。	スパイロメトリの測定項目を予習する。(30分) 検査機器の操作方法と注意点を復習する。(30分)
11	呼吸機能検査③	呼吸機能検査の概要について理解し、説明することができる。	肺活量や努力肺活量の定義を予習する。(30分) 各種呼吸機能指標の算出法を復習する。(30分)
12	呼吸機能検査④	呼吸機能検査を実施し、その結果を読み取ることができる。	検査結果の判定基準を予習する。(30分) データの読み取りと評価を振り返る。(30分)
13	血圧、脈拍①	血圧、脈拍について説明できる。	血圧変動の生理的因子を予習する。(30分) 血圧と脈拍の基礎知識を復習する。(30分)
14	血圧、脈拍②	血圧、脈拍の測定方法を説明し、実施できる。	マンシエットの巻き方と触診法を予習する。(30分) 聴診法による測定手技を繰り返し復習する。(30分)
15	血圧、脈拍③	血圧、脈拍の変動について説明することができる。	血圧変動のメカニズムを予習する。(30分) 血圧と脈拍の復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			74	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート	○	○		26	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	石丸 拓也、梅本 早矢香、他		実務経験紹介	医療施設におけるリハビリテーション実務で患者の身体機能を評価した経験あり(石丸)	

科目名	リハビリテーション概論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学年	OT/PT 1年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	205・206教室
授業概要	リハビリテーションの歴史、理念について学習する。障害モデルと生活機能モデルを身近な方を例に挙げながら整理し、リハビリテーション専門職とチームアプローチなどについて学習する。 リハビリテーションに関連する社会保障制度や法規について学習する。								
一般目標	リハビリテーションの理念と、リハビリテーション医療の特徴を理解する。障害モデルと生活機能モデルを理解する。 リハビリテーション専門職とチームアプローチについて理解する。 基本的な社会保障制度の概要について修得する。								
テキスト 参考書等	教科書 リハビリテーション概論のいろは(南江堂)								

到達目標

知識(認知領域)
 ・リハビリテーションの理念、4つの分野を説明できる。 ・リハビリテーション医療の特徴を説明できる。障害モデル図、生活機能モデル図を書ける。
 ・チームアプローチとは何か説明できる。代表的なリハビリテーション専門職とその役割について説明できる。 ・各制度の概要について基本的な説明をすることができる。

技術(精神運動領域)
 ・なし

態度(情意領域)
 ・積極的に授業に参加することができる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	リハビリテーションの意味・歴史・定義等	リハビリテーションの本来の意味を説明するためのキーワードを言うことができる。リハビリテーション理念に影響を与えた国際的な活動を4つ以上挙げ、簡単に説明することができる。	教科書第1章黙読(30分) 教科書第1章音読(30分)
2	リハビリテーションの必要性①	リハビリテーションの4つの分野、リハビリテーション医学・医療の特徴、地域リハビリテーションの定義を言うことができる。	教科書第2章黙読(30分) 教科書第2章音読(30分)
3	リハビリテーションの必要性②	障害モデル(ICIDH)図が書ける。 ICIDHの問題点があげられる。	教科書第2章黙読(30分) グループワークで使用したICIDHモデル図を見直す(30分)
4	リハビリテーションの必要性③	ICIDH→ICF改定のポイントをあげられる。 ICFモデル図(簡易版)が書ける。	教科書第2章黙読(30分) グループワークで使用したICFモデル図を見直す(30分)
5	リハビリテーションとチーム医療	チームアプローチとは何か説明できる。 チームアプローチの促進因子を挙げることができる。	教科書第3章黙読(30分) 教科書第3章音読(30分)
6	リハビリテーション医学	リハビリテーション医学に関連する人体の仕組みを説明できる。	教科書第4章黙読(30分) 教科書第4章音読(30分)
7	児童福祉、社会保険、公的扶助	児童福祉の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。 社会保険と公的扶助の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。	教科書第5章医療と福祉の違いについて黙読(30分) 教科書第5章医療と福祉の違いについて音読(30分)
8	障害者福祉1	障害を取り巻く概念(ICF、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど)を説明できる。	教科書第5章リハビリテーション関連法規について黙読(30分) 教科書第5章リハビリテーション関連法規について音読(30分)
9	障害者福祉2	障害者総合支援法を中心に、障害者福祉の概要を説明できる。 障害者支援法・障害者手帳で利用できるサービスを列挙することができる。	教科書第5章リハビリテーション関連法規について黙読(30分) 教科書第5章リハビリテーション関連法規について音読(30分)
10	医療保険制度	日本の医療制度の概要を説明できる。	教科書第5章医療制度について黙読(30分) 教科書第5章医療制度について音読(30分)
11	介護保険制度	高齢化の現状、高齢者の現状について説明できる。 介護保険の概要を説明し、利用できるサービスを列挙することができる。 介護保険サービス以外の高齢者サービスを列挙できる。	教科書第5章介護保険制度について黙読(30分) 教科書第5章介護保険制度について音読(30分)
12	地域包括ケアシステム	自助、互助、共助、公助について説明できる。 事例を通し、現在日本の社会保障制度下で利用できる制度やサービスを列挙できる。	教科書第5章地域包括ケアシステムについて黙読(30分) 教科書第5章地域包括ケアシステムについて音読(30分)
13	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学について説明できる。自助具、歩行補助具、車いす、コミュニケーション支援機器、ロボティクスについて説明できる。	教科書第6章黙読(30分) 教科書第6章音読(30分)
14	栄養とリハビリテーション	五大栄養素を列挙し、それぞれの役割を説明できる。 消化や吸収について説明できる。	教科書第7章黙読(30分) 教科書第7章音読(30分)
15	まとめ	講義内容を振り返りながら再学習し、知識を定着することができる。	教科書アンダーラインを引いた箇所の整理(30分) 教科書アンダーラインを引いた箇所の確認(30分)

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	藤井 昭宏		実務経験紹介	理学療法士として10年間、急性期病院で勤務	

科目名	リハビリテーション医学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義・演習	対象学生	OT/PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	205・206
授業概要	リハビリテーション医学についての一般的な知識を総合的に学習する。 代表的な疾患について障害像を把握し、各疾患のリハビリテーションの基本について学習する。								
一般目標	リハビリテーション医学についての一般的な知識を総合的に学習する。 代表的な疾患について障害像を把握し、各疾患のリハビリテーションの基本について学習する。								
テキスト 参考書等	PT・OTビジュアルテキスト リハビリテーション医学 第1版(羊土社)								

到達目標

知識(認知領域)
 ・リハビリテーション医学についての一般的な知識について総合的に説明ができる。
 ・代表的な疾患について障害像を把握し、各疾患のリハビリテーションの基本について説明することができる。

技術(精神運動領域)
 ・演習時は他者とコミュニケーションを積極的に図ることができる。

態度(情意領域)
 ・授業に積極的に参加できる。
 ・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション 骨・関節疾患	骨・関節疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。	p244～p261を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
2	脊髄損傷	脊髄損傷とそのリハビリテーションについて説明できる。	p214～p224を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
3	内部障害(障害各論)	内部障害・呼吸器障害とその評価・循環器障害とその評価・代謝障害とその評価について説明できる。	p139～p148を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
4	呼吸器・循環器・腎疾患	呼吸器・循環器疾患(狭窄症・心筋梗塞・心不全・不整脈)とそのリハビリテーションについて説明できる。	p262～p296を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
5	末梢神経障害・腕神経叢疾患	末梢神経障害、腕神経叢疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。	p318～p325を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
6	精神疾患①	認知症とそのリハビリテーションについて説明できる。	p362～p366を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
7	精神疾患②	精神疾患とそのリハビリテーションについて説明できる。	p368～p380を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
8	リハビリテーション医学総論 (教科書 項目①～⑦)	定義、ADL、チーム医療・ステージ・運動療法・物理療法・義肢装具・地域リハ・職業リハについて説明できる。	p39～p89を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
9	リハビリテーション医学総論 (教科書 項目⑧～⑩)	リスク管理、廃用症候群、生理検査、画像検査、自助具、住環境整備、自助具などについて説明できる。	p93～p128を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
10	脳血管障害	脳血管障害(脳出血・脳梗塞・くも膜下出血)とそのリハビリテーションについて説明できる。運動麻痺・筋力低下・関節可動域制限・運動失調・姿勢歩行障害について説明できる。	p184～p201を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
11	脳外傷・低酸素脳症・脳腫瘍・水頭症	脳外傷・低酸素脳症・脳腫瘍・水頭症とそのリハビリテーションについて説明できる。	p202～p211を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
12	意識障害・高次脳機能障害	意識障害、高次脳機能障害について理解し、そのリハビリテーションについて説明できる。	p149～p158を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
13	神経・筋疾患	神経筋疾患(PD・MS・MG・GBS・ALS・SCD・PM・DM・MD・MSA)とそのリハビリテーションについて説明できる。	p232～p243を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
14	高齢者	高齢者の特徴や関連するフレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニアについて説明できる。	p343～p349を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)
15	スポーツ疾患	スポーツ疾患の特徴やスポーツ外傷について説明できる。	p310～p317を一読しておく。(20分) 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(40分)

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	山崎 由真		実務経験紹介	作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。	